

国立大学法人九州工業大学学長の業務執行状況の確認結果について

令和3年1月22日
国立大学法人九州工業大学
学長選考会議

国立大学法人九州工業大学学長選考会議規程第3条第4号に規定する学長の業務執行状況について確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認の経過

- (1) 令和2年度第1回学長選考会議（令和2年6月18日開催）において、学長の業務執行状況確認の実施時期、対象期間、実施方法等を定めた「国立大学法人九州工業大学学長の業務執行状況の確認について申し合わせ（平成28年11月17日学長選考会議決定）」を確認した。
- (2) 令和2年度第3回経営協議会（令和2年11月20日開催）において、次の資料に基づき学長から令和元年度4月からこれまでの取組みについて、報告があり、質疑応答が行われた。**（資料1, 2）**
 - ・「第3期の業務状況に係る報告」

経営協議会終了後に、令和2年度第2回学長選考会議を開催し、次の参考資料を参照の上、業務執行状況の確認方法とスケジュールについて確認が行われ、後日、学長選考会議委員及び監事からの意見を総務課に提出することとした。

（資料3）

参考資料

1. 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
2. 令和元事業年度に係る業務の実績に関する報告書
3. 監事監査報告書
4. 所信表明書

- (3) 令和2年度第3回学長選考会議（令和3年1月22日開催）において、令和元年度中における学長の業務執行状況について、最終的な確認を行った。

2. 確認結果

学長選考会議は、学長の業務執行状況は適正であることを確認した。

学長のリーダーシップの下、グローバル人材の育成、研究の活性化、産学官・地域社会との連携、管理運営などが中期計画に沿って順調に推進しており、対外的な様々な評価（大学改革支援・学位授与機構の評価事項C「教育の国際化の状況」でS評価、全国国立大学ランキング等）の結果にも表れている。

工業大学という強み・特色とIT化の推進を加速し、世界的な大学に成長させることを期待する。

第3期の業務状況に係る報告について

令和2年度 第3回 経営協議会
日時:令和2年11月20日(金)

令和2年11月20日(金)に開催された第3回経営協議会の〔その他〕の“(1)第3期の業務状況に係る報告について”の中で、学長から令和元年4月以降の取組みについて、報告があり、引き続き意見交換が行われた。

(※) 配付資料は別添 資料2のとおり)

令和2年度 第3回 国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨(抜粋)
(日時:令和2年11月20日(金) 13:00~15:00)

その他

(1) 第3期の業務状況に係る報告について

(机上配付)

学長から、第3期の業務状況に係る報告について、下記のとおり説明があった。

【教育】

P2~6: コロナ禍のGCE教育として、学生の留学意識を醸成、喚起、モチベーションを維持することを目的に、オンライン相談会やオンラインセミナーを実施した。

また、新しい国際交流機会の創出を目的に、海外の大学とオンラインワークショップやオンラインによる研究室の交流会や、オンライン留学も試行実施した。

P10~11: コロナ禍の新入生支援について、上級生が新生の学生生活の疑問や修学上の不安についてアドバイスする「ピアサポート」や友達作りのきっかけの場として「オンラインお昼休み」を実施した。工学部では、入部weekの開催、情報工学部では、学部長だよりなど、各部局においても積極的にオンラインでの新生支援を実施した。

P12~14: 志願倍率並びに偏差値の推移は、18歳人口減少の中、年々上昇傾向にある。志願倍率については、2019年度と2020年度を比較しても上昇している。

出身県別の入学者については、福岡県外からの入学者が55%となっており、関東・近畿地方からの志願者も増加している。

令和3年度入試から、新たに「総合型選抜I」を導入し、学外(東京・大阪)の実施予定をオンライン受験へと変更し、コロナ禍においても柔軟に対応している。

また、学生募集活動についても、オンラインを活用した受験相談会・オープンキャンパスなど、入試広報活動を実施している。

P15～17： 就職状況については、良好な状況を堅持している。大学院生だけに限ると、東証1部上場企業への就職率は、全体の63%となっている。

多様なキャリア支援として、特に学内での合同企業説明会については、今年度は、初のオンライン開催となり、現時点で約700社の申込があり、昨年度申込数（750社）と遜色ない状況である。また、オンラインセミナーも開催予定である。

正課外活動の学習活動にも注力しており、明専会様、安川電機様からご支援をいただいている。また、この活動に共感いただき、2018年度は千鳥屋本家様、2019年度からは、QTnet様、佐電工様、更に2020年度から西日本シティ銀行様からご支援いただけるようになり、少しずつ産業界の方々が、学生の取組みに関心を持っていただけるようになってきた。

【研究】

P19～P21： 研究活動支援として、組織的な連携を推進するために、共同研究講座の設置や海外の大学・研究機関と組織的・持続的に共同研究を行う取組みを行っている。

研究組織戦略としては、大学として特徴的な研究を推進するために、令和2年度からオープンイノベーション推進機構を設置し、戦略的研究ユニット・研究連携プロジェクトセンター・重点プロジェクトセンター・先端基幹研究センターに分類を行い、公募により各センターを設置している。

共同研究講座については、11件の実績があり、引き続き推進していく。国際連携においては、コロナ禍の中、多数の申請が行われており、共同研究が活性化されている。件数は、プトラ大学と3件、台湾科技大学と5件、ペトロナス工科大学との3件を支援している。国内では、情報通信研究機構と5件の組織的な共同研究を支援している。

P22～P24： 共同研究契約額については、2019年度前年比の金額は1.2倍に増加し、企業との信頼関係を醸成している。受託研究については、国のプロジェクト採択の増加により、10月末時点で、2019年度前年比の金額は1.3倍に増加している。

また、国のプロジェクト推進による受託研究としては、令和2年度において新型コロナウイルス対策対応の追加予算を獲得している。

P25～P26： マレーシアプトラ大学と国際合同シンポジウムを例年、輪番にて各大学のキャンパスにて開催していたが、今年度は、オンライン開催し、長崎大学が初参加で実施予定である。

国際ネットワークの形成については、海外拠点としてプトラ大学（マレーシア）、キングモット工科大学北バンコク校（タイ）のほかに、新たに、揚州大学（中国）に3つ目のジョイントラボラトリーを設置し、新規拠点の活用や連携強

化を推進している。

P27： 産学連携の発展では、キャンパスの中で未来を感じるような研究活動を実施する取組の第1弾として設置した、戸畑キャンパス内の無人店舗をリニューアルオープンし、産学連携した免許取得は「全国初」である第2弾のローカル5G実証試験も進行中である。

【社会連携】

P29： 地域企業との取組みとして、産学官連携推進会によりインターンシップ型アルバイト事業を実施し、参加企業数9社、応募実績51名（9月末時点）であった。これは、就業型体験型アルバイトであり、「学生教育」、「企業との連携」に力を入れている大学と「学生採用」、「大学との連携」を期待する企業ニーズをマッチングさせることを目的とした新しい産学連携の取組である。今後、定期的開催を予定している。

自治体等との連携において、北九州市とは、北九州市新科学館（仮称）への展示協力や市内大学関係者勉強会に参加し、市内大学関係者との意見交換を行った。

ふるさと納税制度においては、北九州市及び飯塚市において大学応援メニューを設けていただき、寄附金募集活動を推進している。

P30： 特に北九州市との関係では、地域大学・地域産業創生交付金事業において、北九州市、FAIS、安川電機とロボットの研究開発・人材育成に取り組んでおり、今後の成果に期待している。

P31～P35： 本学の教育研究活動の価値を広く理解してもらうために、定期的に「学長記者懇談会」を開催しており、新聞・マスメディアに取り上げられる機会が増加している。

異業種連携として、YE DIGITAL、北九州市との人材育成を基本とした連携協定の締結や、博多大丸とのオンラインイベントを開催予定である。

長崎大学と工学系強化を目指した協定を締結し、今後、多様な連携での未来の社会発展を担う人材育成を目指しており、その一環として、マレーシアプトラ大学と国際合同シンポジウムに参加予定である。

広報資料として、研究内容をわかりやすく紹介する『KYUTECH LAB』（WEB・冊子・パネル）に研究者のコンテンツを新たに追加し、充実させている。

【管理運営】

P37～38： 経営改革の進捗では、戦略的な教員人事を推進し、「人財活性化推進会議」を設置し、教員の部局間異動や教員採用計画の策定を実施している。

コロナ禍の対応として、2020年2月に危機事象対策本部を設置し、学生の学

びを継続させるために、給付型奨学金として、新型コロナウイルスの影響で困っている学生を対象に5万円支援した。

P39： 男女共同参画推進に向けた取り組みとして、採択されている文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」における令和元年度の「中間評価」で、最高の「S評価」を獲得した。

研究者への複合支援により、女性教員の科研費採択率が1.3倍となり、研究力向上に効果があった。その支援についても、男性研究者も支援対象とする見直しを行い、研究環境の整備を推進している。

P40～41： 教育現場からの評価としては、例えば、全国国立大学ランキングにおいて、面倒見が良い大学で2位の評価などをいただいている。九州地区国立大学ランキングにおいても、「教育力が高い大学」「研究力が高い大学」等、九州2位につけており、本学の活動が社会に認知されてきている。

有名企業400社への就職実績においては、全国7位：西日本1位であり、企業から評価されていると感じている。

世界大学ランキングにおいては、日本の他大学が伸びてきておりQSの国内ランクが下がっているが、分野別ランキングでのEngineering and Technology分野においては、日本の大学で15位と昨年と同じ位置につけている。

また、初参加したインパクトランキング2020の「SDG9」において、101-200位にランクインした。

以上のとおり、教育・研究・社会連携・管理運営に取り組んできたところであり、さらに基盤を確実にするために、教育研究の質を高めていきたい。

引き続き、下記のとおり各委員と意見交換があった。

(○：学外委員)

○： 教育・研究・社会連携・管理運営について、十分に推進している。明専会においても、研究活動を支援していきたい。

○： 学長自ら説明できるように、理解及び情報が把握できており、素晴らしい。ビジョンとミッションが非常に明確であり、今後の活躍を応援したい。ただ、良い学長で終わるのではなく、実績を出し続け、ステップアップしてほしい。

例えば、飯塚市において、学生が、中・高校生に対して教えるなど、他の都市では真似できない、ITの裾野が広がるような取組をして欲しい。学生も、中・高校生に対して教えることにより、成長につながり、オポチュニティとなる。

もっとストレッチゴールを作って、日本のIT分野の広げることにも貢献できるように頑張ってもらいたい。リスポンシビリティを持って、存在感のあ

る魅力ある大学になってほしい。

- ： RKB 毎日放送と業務連携を行っており、番組において大学を紹介する取組を行っている。ローカル5G の取組については、他の会議でも紹介されており、大丸とのコラボイベントなど含めて、福岡市での露出が増えていると感じる。

また、入口である志願者も九州以外から割合が増え、出口である就職も良好であり、学長とはじめとするチームワークにより成果がでていのではないか。

- ： ビジョンが明確であることに加えて、スピーディに実行している。学長のリーダーシップのもと、教職員全体のチームワークがしっかりできていると感じる。コロナ禍の中、人の往来が制限されている状況において速やかにオンラインに切り替え、オンラインで実績を上げている。学長のリーダーシップのもと、速やかにビジョンを実行する体制ができているのは大変優れているところであり、感銘を受けている。
- ： 世界的なコロナ禍の状況の中、こういうときだからこそできる海外との連携や国内大学との連携など、積極的に取り組んでいることがすばらしい。

学生においては大学から様々なケアを受けて、今だからこそできる学びの機会を継続して得ている。

今後、ますますエンジニアの存在が必要とされるようになり、これまで採用していなかった企業も、これからは採用を検討しているようであるため、これまで以上に多様な企業への就職先が広がるように思える。学生が様々な体験をし、いろんな形で社会に羽ばたく学生が育ってきていのではないか。

- ： 産学連携を通じ、企業にかかわっているが、企業との関わりは、今後ますます重要になってくる。今後も積極的に推進したい。
- ： コロナ禍において、教育関係や情報関係において新たな対応が求められたが、ボトムアップされた意見も反映させた学長からの的確な指示があった。今まで取り組めていなかった遠隔授業についても、このコロナ禍を機会として、推進していく予定である。
- ： 風通しの良い組織であり、学長のリーダーシップのもとビジョンが共有されており、ベクトルが一致していると感じている。
- ： 社会との連携・広報において、学長懇談会などユニークな取り組みをしており、柔軟性・スピード感を感じる。今後もっと地域社会との連携を推進していきたい。
- ： 「選択評価事項C 教育の国際化の状況」や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」における令和元年度の「中間評価」においても評価が高く、学長のリーダーシップのもと一丸になって取り組んでいる。



第3期の業務状況に係る報告

未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」

2020年11月20日
国立大学法人九州工業大学

- I. 教育
- II. 研究
- III. 社会連携
- IV. 管理運営

対面での活動が困難な状況においても、GCE教育推進の歩みを停滞させることなく、学生をエンカレッジし、学びを継続する機会を創出する。

取組み① Encourage

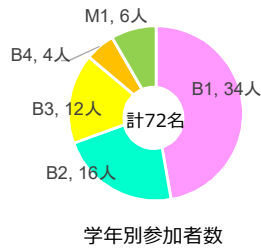
目的：留学意識の醸成、喚起、モチベーションの維持

オンライン相談会

zoomを用いた個別の留学相談会を5月から実施
参加学生数：72名



相談会ポスター



相談内容

- ・海外派遣プログラムの紹介
- ・留学にかかる費用
- ・本人の学習目的や専攻、学年、進路等に応じた留学プログラムの紹介



相談会資料



相談会の様子

Outcome

- ◎ zoomを用いたことで、学生との距離感が縮まり、本音を聞くことができるという新しい効果もあった。
- ◎ 相談会での質疑応答や相談会後のアンケートを通して、海外留学に関する学生の様々なニーズを把握することが出来た。

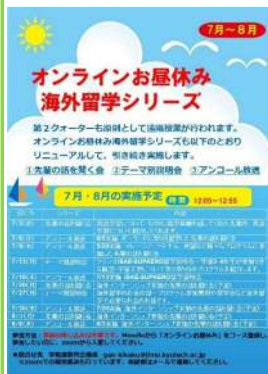
オンラインセミナー

「オンラインお昼休み海外留学シリーズ」
お昼休みの時間帯に海外留学に関する
セミナーを実施。

内容：先輩の留学体験談を聞く会、海外大学
院進学や留学費用等のテーマ別説明会、海外
派遣プログラムやオンライン留学の説明会等。

開催数：21回
(第1クォーター：3回、第2クォーター：9回、第3
クォーター以降：9回(予定含む))

参加学生数：337人(10月28日開催時点)



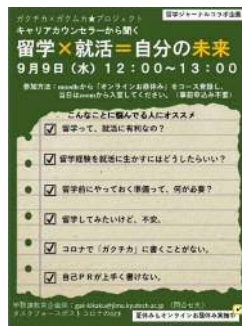
(第2クォーター)セミナーポスター



(第3クォーター)セミナーポスター

日程	セミナーテーマ
5/29	留学した先輩の経験談を聞くvol.1 5か国の海外派遣プログラムに参加した学生の経験談
6/5	留学した先輩の経験談を聞くvol.2 ポーランドに5か月留学した学生の話聞く会
6/12	豪州メルボルン語学研修オンラインセッション
7/3	英語学習について先輩と留学生のトークセッション
7/6	6/5セミナーのアンコール放送
7/9	5/29セミナーのアンコール放送
7/13	フランスISAE-SUPAERO Spring Semester留学説明会
7/16	7/13説明会のアンコール放送
7/20	留学した先輩の経験談を聞くvol.3 海外インターンシップ参加の先輩の話聞く会
7/27	海外留学のお金の話セミナー
8/3	留学ジャーナルコラボセミナー「理系学生のための留学セミナー」
9/9	留学ジャーナルコラボセミナー「留学×就活セミナー」
10/14	留学ジャーナルコラボセミナー「海外大学院進学基礎セミナー」
10/21	マレーシアUPM派遣プログラム紹介セミナー
10/28	タイFirst Step Program紹介セミナー
11/5	オンラインフィリピン留学説明会
11/13	オンラインベトナム留学説明会
11/20	オンラインオーストラリア語学研修説明会
12/4	留学ジャーナルコラボセミナー「留学経験を就活に活かす」
調整中	留学した先輩の経験談を聞くvol.4 海外インターンシップに参加した先輩の就活経験談
調整中	交換留学基礎セミナー

セミナーポスター



5. 現地での生活



先輩学生による
海外インターンシップ
プログラム
体験談セミナーの様子

4. インターンシップ内容



先輩学生による
海外派遣プログラム
体験談セミナーの様子



大学HPへの掲載



取り組み② Challenge
目的: 新しい国際交流機会の創出

オンライン交流

- **オンラインワークショップ**
9月25日 タイチュラロンコン大学
ロボティクス分野における研究プレゼン
午前 九工大→チュラ大 97名参加
午後 チュラ大→九工大 76名参加
◎九工大へ留学を希望する問合せ増
- **JSTさくらサイエンスオンライン交流**
オンラインによる海外の学生・教員との研究室交流。
・工学研究院 長山教授
「機械工学分野における国際交流協定校との連携強化によるグローバル人材の育成」
送り出し国: 中国・韓国・マレーシア・台湾・インド
学生 34名、教員・その他12名
・情報工学研究院 小田部教授
「学生交流から始める本格的な国際共同研究」
送り出し国: パングラデシュ
参加者数: 学生 3名、教員・その他7名
- **LL・GCLの取り組み**
LL: 講師によるオンライン英会話レッスン
留学生講師による外国語講座
→参加者平均190人/月
GCL: KIT Adventure Club
Zoomを活用した留学生との交流や英会話練習
→参加者平均64人/月

オンライン教育

- **COIL型教育の試行 (加藤教授・大田准教授)**
学部授業科目「国際協働演習」において、COIL型教育の手法を取り入れ、海外の大学とのオンラインを活用した協働学習を実施。
参加学生数: 九工大 33名
マレーシアアブラ大学 20名
米国ベイツ大学 4名
学習内容: 参加学生を4~5名のグループに分け、各グループで以下の課題に取り組む。
Task 1 自己紹介
Task 2 COVID-19に関する経験をディスカッション
Task 3 バーチャルキャンパスツアーでお互いの大学を紹介。
キャンパスにおけるSDGsへの貢献ポイントを紹介。
Task 4 SDGs達成のための具体的行動を考え、広報資料を作成。
Task 5 グループでの振り返りディスカッション。
- **「大学院国際協働演習」(実施予定)**
・台湾大学との交流プログラム
両大学の学生グループによるテーマに基づいたディスカッション
12月にワークショップ等のオンラインイベントを実施予定。
・九工大・UPM国際シンポジウム
オンラインを活用した口頭発表・ポスター発表
ライブやチャットによるQ&Aセッション
・インド カルカッタ大学との交流プログラム
カルカッタ大学との交換授業への参加
両大学の学生による研究発表・海外の著名研究者による講演

タイチュロンコン大学との
オンラインワークショップ

Meisen Dormitory (TOBATA)
Meisen Dormitory is a student dormitory for 3rd year undergraduates of both international and Japanese students, of School of Engineering (including privately funded students). It has 20 rooms equipped with a bathroom with shower, a bed, a desk and chair, a closet, cupboards, jacks for LAN and phone, and air conditioner.
Rent: 15,000 yen
Utility expenses: 4,000 yen

Student Residence (IZUKA)
Student Residence is a dormitory for both international and Japanese students. There are 20 units and one unit has bedrooms and a shared kitchen, dining, and a bathroom ensuite. The kitchen is equipped with a refrigerator, a microwave, a cupboard, a table and chairs. The bathroom has a shower room and a washing machine. Also, an air conditioner is equipped with a bed, a desk and chair, as an air conditioner.
Rent: 15,000 yen
Utility expenses: 5,000~10,000 yen

国際協働演習で授業の
成果物として作成したブログ

Let's talk about Sustainable Development of our Housing!
SUSTAINABLE DEVELOPMENT
In International Collaborative Learning (ICL) Workshop 2020

LLでの留学生講師による
外国語学講座

LLでの留学生講師による外国語学講座

GCLでの留学生との
オンライン交流

さくらサイエンス交流の報告会を
オンラインで実施(大学HP掲載)

バングラデシュの学生が日本で学んだ取組について報告会を行いました

更新日: 2020.08.02

本学大学院情報工学研究科 情報情報工学研究系 小笠原 敦教授、科学研究費補助金(KAKENHI)のさくらサイエンスプログラムを利用して毎年バングラデシュの学生を招聘し、国際共同研究や国際共同教育活動を実施し、本学大学院情報工学研究科 国際共同教育の発展を促進すると、日本の科学技術や日本の教育について紹介してきました。

コロナ禍で今年度の実施は出来ず、2020年7月25日、Zoomを使った報告会が行われ、バングラデシュの学生が日本で学んだことも周知と感謝している報告が報告されました。その中で、Ranjan Ranjan Khatunがバングラデシュの学生としてバングラデシュで学んだことを報告しました。

これまで、バングラデシュ学生に日本の科学技術や教育について伝えてきましたが、今年度はオンラインで実施した報告会を通じて、海外に伝えたいことや、日本での生活や研究について報告を継続してまいります。

オンライン留学

【夏休み】

● オンライン英語コース(試行)
オーストラリアの公立教育機関(TAFE)の附属語学学校 でのオンライン英語コースの受講プログラム

実施期間: 9月14日~24日

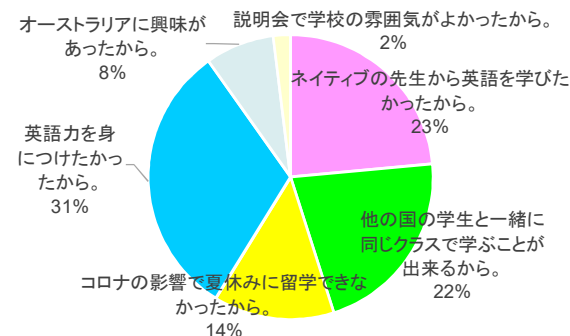
参加人数: 25名

(内訳)

- ・1週間コース 15名(B1 6名、B2 5名、B3 2名、M1 2名)
- ・2週間コース 10名(B1 5名、B3 3名、B4 2名、)

概要: 1日3時間×週4日間、他の国の学生と合同のクラスに参加し、ディスカッションやペアワーク等を通して、日常英会話を学ぶ。

プログラム参加の動機



【春休み】

● オンライン国際交流プログラム

・ベトナム

対象: 学部1~4年生

期間: 2021年3月5日(金)~3月19日(金)

内容: ベトナム人学生との協働学習、異文化体験プログラム、英語レッスン

・フィリピン

対象: 学部生・大学院生

期間: ①2021年2月22日~3月5日

②2021年3月8日~3月19日

内容: マンツーマン・グループでの英語レッスン、現地学生との交流、SDGsについて英語で学ぶ授業

・カンボジア

対象: 工学部の寮生

期間: 2021年3月5日(月)~3月13日(土)

内容: 海外での起業、ものづくりについてグループワークやワークショップを通して学ぶ。

● オンライン語学研修プログラム

対象: 学部生・大学院生

期間: 2021年2月から3月に1~5週間

内容: オーストラリアの公立教育機関(TAFE)の附属語学学校の提供するオンライン英語レッスン

オンライン留学プログラムのコンテンツ

オンライン英語コースの1週間の時間割

	Day 1	Day 2	Day 3	Day 4
9:30 - 9:40	Coffee & Connect (live WebEx)	Coffee & Connect (live WebEx)	Coffee & Connect (live WebEx)	Coffee & Connect (live WebEx)
9:40 - 10:30	Group Session 1 (live WebEx)	Group Session 1 (live WebEx)	Group Session 1 (live WebEx)	Group Session 1 (live WebEx)
Break				
10:40 - 11:30	Group Session 2 (live WebEx)	Group Session 2 (live WebEx)	Group Session 2 (live WebEx)	Group Session 2 (live WebEx)
Break				
11:40 - 12:30	Group Session 3 (live WebEx)	Group Session 3 (live WebEx)	Group Session 3 (live WebEx)	Group Session 3 (live WebEx)

カンボジア国際交流プログラムの日程表

日程	内容
3/5	事前研修 カンボジア基礎情報/研修の心構え
3/8	オリエンテーション/研修講師講話/アイスブレイク
3/9	・工房訪問 ・プノンペン市内散策 ・【ワークショップ】『カンボジアのイメージをどう変えて行けるか』
3/10	・ものづくり職人(手彫り等)の工房を訪問 ・【ワークショップ】『工房とのコラボ企画商品の発案会議』
3/11	・カンボジアNGO団体を訪問&団体紹介 ・【ワークショップ】『カンボジアが抱える問題への解決策を検討』
3/12	現地のカンボジア人と英語で交流
3/13	・最終プレゼンテーション ・修了式・講師からのフィードバック

ベトナム国際交流プログラムの時間割

日程	内容
3/8	【オリエンテーション】/英語レッスン①
3/9	【ワークショップ】ベトナムと日本の若者のライフスタイル
3/10	英語レッスン②/【カルチャーセッション】料理文化
3/11	英語レッスン③
3/12	英語レッスン④/【キャリアセミナー】グローバルに働くために必要な要素
3/15	英語レッスン⑤/【ワークショップ】ベトナムと日本の関わり
3/16	英語レッスン⑥
3/17	英語レッスン⑦/【ワークショップ】若者の起業家精神について
3/18	英語レッスン⑧
3/19	【最終プレゼンテーション/フェアウェルパーティー】

フィリピン国際交流プログラムの日程表

	月	火	水	木	金
第1週 マンツーマン	英語レッスン				
	SDGsテーマ学習				
第2週 グループ	SDGs テーマ 学習	英語 レッスン	SDGs テーマ学習	国際交流	英語 レッスン
第2週 マンツーマン	英語レッスン				
	SDGsテーマ学習				

●海外協定校と今後の学生交流に関するオンライン打ち合わせの実施 →新規プログラムの開拓につながった。



・フランス サンティエンヌ国立高等鉱山学院
既存の派遣プログラム(5か月間)に加え、新たな派遣プログラム(3か月間)の実施に関する打合せを実施。



・フランス ISAE-SUPAELO
宇宙・航空分野を学ぶ学部生向けの1セメスター派遣プログラムに関する打合せを実施。



・ベトナム ベトナム国家ホーチミン市情報工学大学
両国間の渡航制限解除後に実施する低学年向けの新たな派遣プログラムに関する打合せを実施



・マレーシア マレーシアマルチメディア大学
交換留学プログラムに関する情報交換を実施。



・タイ カセサート大学
短期・1~2か月・セメスターの留学プログラムについて打合せを実施。

緊急事態宣言による入構禁止、遠隔授業により、キャンパスでの活動ができない状況で、学生同士のつながりを創出する。

【全学の取り組み】

①ピアサポート

上級生が、新入生の学生生活の疑問や修学上の不安について相談にのったり、アドバイスをする制度。

zoomなどを活用したオンライン面談やメールやSNSを活用し、新入生のサポートにあたっている。

②オンラインお昼休み

工学部と情報工学部の1年生を対象に、友達作りのきっかけの場として、オンラインお昼休みを実施。

お昼ご飯を食べながら、自己紹介やお題に沿って自由におしゃべりしてもらう企画を実施。

対象：工学部および情報工学部1年生

配信日時：週1回程度のお昼休み・Zoom配信

zoom機能のブレイクアウトルームを使ったおしゃべりを実施

参加方法：Moodleからコース登録して、参加可能。

工学部

◆ TeamsCafe

お昼休みの参加型情報番組をzoomやマイクロソフトTEAMSを活用して実施

(実施内容)

- ・サークル紹介
- ・研究室紹介
- ・奨学金などの事務手続案内
- ・マナーアップ講座
- ・公開指導教員面談
- ・FD講演会



◆入部weekの開催

※学生係と学生組織の体育会、文化会で企画・実施。

原則として必須参加とし、学部1年生のうち、延べ400名超の学生がサークル等の入部を決定した。

情報工学部

◆学部長だより

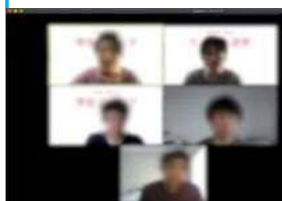
Youtubeにより、学部長からの近況報告などを届ける。

◆飯塚ALSAによる

「新入生のための自己紹介イベント」

・新入生が他の学生とつながるきっかけを提供することを目的に開催。

5~6人ほどのグループに分け、1人当たり3分で、自己紹介や頑張っていること、ゲームの話題や自炊の話題など、様々な話題。

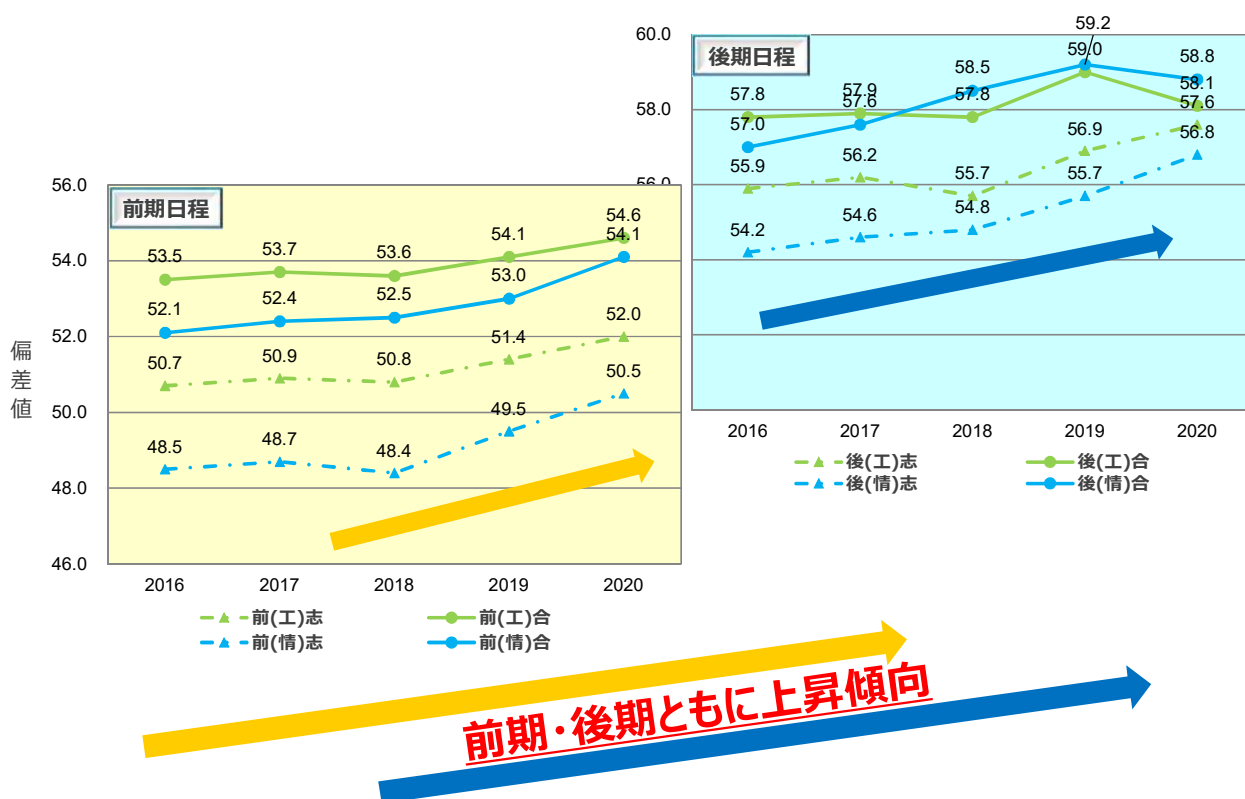


新入生のための自己紹介イベント



情報工学学部長だより

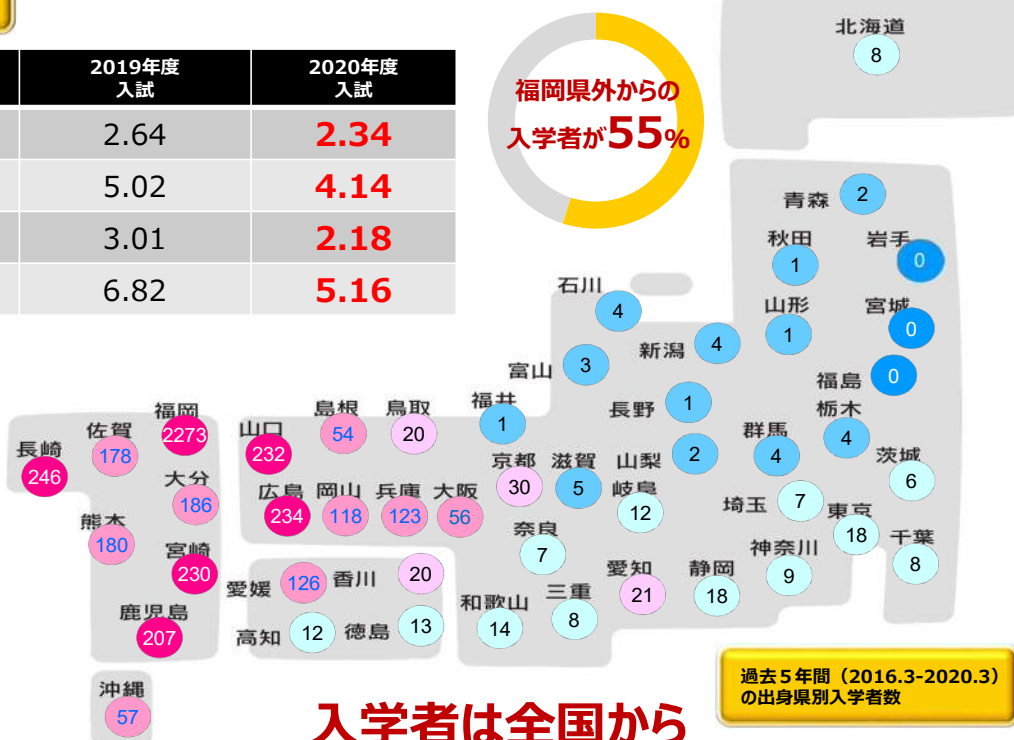
■ センター試験偏差値の推移（5教科7科目・理系）



志願倍率

学部	入試区分	2019年度入試	2020年度入試
工学部	前期	2.64	2.34
	後期	5.02	4.14
情報工学部	前期	3.01	2.18
	後期	6.82	5.16

福岡県外からの入学者が**55%**



入学者は全国から

関東・近畿地方からの志願者も増加中！

入学者選抜

新たに「総合型選抜Ⅰ」を導入

令和3年度入学者選抜から、第1段階選抜（レポート及び課題解決型記述問題）、及び第2段階選抜（学びの計画書、適性検査〔数学、理科、英語〕、個人面接）により**多面的・総合的に評価して選抜する「総合型選抜Ⅰ」**を導入した。第1段階選抜は、学外試験場（東京・大阪）2か所でも実施を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、**第1段階・第2段階選抜ともに遠隔（オンライン）受験へと変更**した。また、受験環境（通信環境、通信機器等）の確保が困難な受験生には、通信機器の貸し出しや来学受験を認めるなどの配慮を行った。

「学校推薦型選抜Ⅰ」及び「帰国生徒選抜」のオンライン受験

令和3年度入学者選抜の「学校推薦型選抜Ⅰ」及び「帰国生徒選抜」では、感染症対策として、工学部では、従来どおり対面を実施するが、受験生の状況に応じて**遠隔（オンライン）受験にも対応**することとし、情報工学部では、**遠隔（オンライン）受験で実施**することとし、受験環境（通信環境、通信機器等）の確保が困難な受験生に対しては、来学受験を認める他、通信機器の貸し出しなどの配慮を行うこととした。

学外試験会場（大阪）での試験実施

平成31年度入試から導入した「AO入試（現総合型選抜Ⅱ）」では、令和2年度入試も引き続き、第2段階選抜の試験会場を、本学工学部（戸畑キャンパス）と学外試験会場（大阪）の2会場で開催し、受験生の利便性を高めるとともに、全国の優秀な受験生の獲得を目指した。



学生募集活動

オンライン受験相談会を開催

本学に興味のある高校生、保護者、高校教員等を対象に、オンライン個別受験相談会を開催（1組あたり30分）した。これまで5月から9月にかけて7回開催し、12月から1月にかけても開催を予定している。



オンラインオープンキャンパスを開催



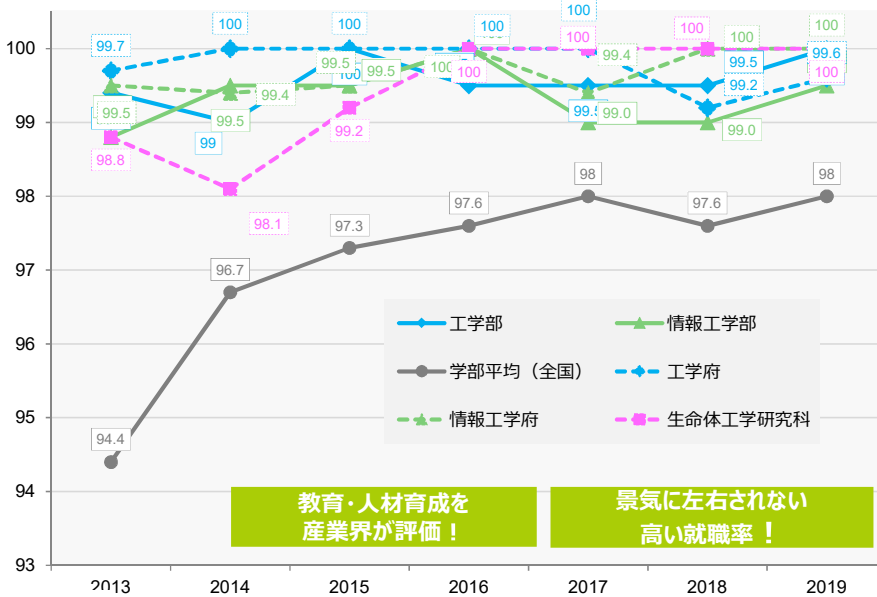
今年度は初めて**オンラインでオープンキャンパスを開催**。好評であった夏期に加え、**秋期にも開催**した。WEB・動画コンテンツを多数準備し本学の魅力を発信するとともに、同期型コンテンツによる、きめ細やかな対応を行った。

オンラインを活用した入試広報活動

昨年まで全国の12会場で開催していた**入試説明会（教員対象）**を、オンラインによる開催に変更した。また、**高校訪問**及び**出前講義**についても、現地への訪問に加え、オンラインにも対応し、本学への進路意識の高揚を図っている。



学生の過去7年間の就職率の推移



教育・人材育成を
産業界が評価！

景気に左右されない
高い就職率！

- (2013~2019) **就職率98%以上**で推移
- 全国平均を上回る堅調な就職率

- 就職者の **55.5%** が上場企業/公務員
(大学院生では **約63%**) (2020.3 学部・大学院卒)
- 学部卒業生のうち、**56.5%** が大学院へ進学

- (2013~2019) **就職率98%以上**で推移
- 大学院生の就職率は高水準で推移

- 約 **70%** は、関東・東海・関西地区へ就職
- 福岡県 (九州) から、**全国に向けて** 人材を排出

過去5年間の就職先
(2016.3-2020.3学部・大学院卒業生)

順位	就職先企業	人数
1	本田技研工業 (ホンダ)	92
2	三菱電機	71
3	日立製作所	65
4	NECソリューションイノベータ	48
5	パナソニック	48
6	日本製鉄	46
7	トヨタ自動車九州	46
8	リネーション クマコファシリテーター	44
9	スズキ	43
10	三菱自動車工業	39
11	九州NSソリューションズ	36
12	マツダ	35
13	オービック	34
14	川崎重工業	33
15	村田製作所	33
16	京セラ	32
17	トヨタ自動車	32
18	富士通	31
19	富士電機	31
20	九州電力	29
21	日産自動車	29
22	ソニーLSDデザイン	26
23	テクノス	26
24	アイシン・エイ・ダブリュ	25
25	JFEスチール	25
26	TOTO	25
27	キヤノン	24
28	SUBARU	24
29	三井ハイテック	24

九工大の就職支援の特色は、**多様なキャリア教育**にあります。また、**企業と信頼関係**を築いている**就職担当教授によるサポート**と、社会の**第一線で活躍する卒業生からのサポート**にあります。

豊富な学校推薦枠と幅広い情報ネットワーク



学校推薦で応募できる企業が1人あたり5～10社程度あり、企業の評価も高く**産業界には卒業生ネットワーク**があるので自由応募でも就職に強い。

多様なキャリア教育



セミナーの実施、キャリア形成に関する講義、インターンシップなどを低学年次から実施。
 <開設科目>
 キャリア形成入門（工学部）
 キャリア形成概論（情報工学部）

就職担当教員が内定までマンツーマンでサポート



就職担当教授が学生の適性と企業のニーズを見極めてマッチングするからこそ**平均1.16社の採用選考で内定が決まります**。

オンラインセミナー開催

- ・2020年12月2日（水）
「車座になって先輩と語ろう」
- ・2021年3月2～6日
「学内合同企業説明会」



■ **2021年3月2～6日 初のオンライン開催！**
 （申込数約700社）

<参考> 2020年3月の合同企業説明会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止（申込数750社超）

正課外活動 – 学生プロジェクト –

企業や社会において **先導的リーダーシップ** を発揮することのできる **創造的人材** を育成します！！

2020年度採択状況

計 **21** 団体

正課教育で学んだ知識やスキルを活用し、課外活動を通じてエンジニアリング・デザイン能力を養成する学生プロジェクトを継続して支援しており、21 団体に対し、総額1,800万円にのぼる活動資金の支援を実施した結果、学生プロジェクトの一つである『Hibikino-Musashi@Home』が世界最大の競技会『RoboCup2020』のTechnical Challengeで準優勝するなど、世界を股にかけ活躍する団体が誕生しました！

創造学習プロジェクト
 ～200万円
 活動実績必須 (1団体あたり)
 各種技術系競技会への参加や地域貢献活動を目指すグループ
(※千鳥屋本家 様、東産電工 様、西日本シティ銀行 様からの支援)

産学連携プロジェクト
 ～200万円
 活動実績不問 (1団体あたり)
 支援者企業の分野に基づく活動をを行うグループ
(※東川電機 様、QTnet 様からの支援)

夢チャレンジプロジェクト
 ～30万円
 スタートアップ (1団体あたり)
 将来的に発展が見込まれる萌芽的取組みを行うグループ



これらの学生の取り組みに企業からの共感が高まり、支援企業数が増えるとともに、支援の在り方についても従来の経済支援のみに留まらず、技術支援にまで枠組みが拡大しています。



YASKAWA



千鳥屋本家

QTnet



令和2年度から



ココロがある。コトがある。西日本シティ銀行



クラウドファンディングにも挑戦！

READYFOR株式会社と国立大学法人九州工業大学は、寄附金獲得による研究の活性化や学生の部活動の支援を目的とした業務提携を2019年度からスタートしました。

早速、学生プロジェクトに取り組む2団体が、クラウドファンディングによる資金調達に挑戦し、いずれの団体も当初の目標金額を大幅に超える資金調達に成功し、各団体ともに夢実現に向け、取組を加速させています！！

I. 教育

II. 研究

III. 社会連携

IV. 管理運営

18

1. 組織的な連携推進

- ① **共同研究講座**：企業研究者を教員として受け入れ、学内に安定した**産学連携**研究の基盤を構築〔H29～〕
- ② **ジョイントプログラム**：プトラ大学、台湾科技大学及びペトロナス工科大学とのマッチングファンドによる**国際研究連携**〔H29～〕
- ③ **長崎大学と連携・協力協定**：工学系を中心に**教育、研究及び人材育成**などの連携・協力を効果的に推進〔R2～〕

2. 教員の学外連携支援

- ① **卒業生との連携支援**：海外の研究機関又は高専で研究者として活動する**卒業生**を支援、海外大学・高専等との連携を強化〔H28～〕
- ② **他大学との共同研究支援**：**研究施設・設備等の共同利用**を通じた新たな共同研究等を促進〔H29～〕
- ③ **国際共同研究指導制度**：海外研究者と**大学院生の研究指導**を共同で行い、研究指導体制の充実や国際共同研究等を推進〔H29～〕

3. 学内の研究活性化

- ① **先端基幹研究センター等支援**：全国的・国際的な**研究拠点形成**の推進〔R2～〕
- ② **戦略的研究ユニット促進**：**革新的な研究活動**を行う研究ユニット支援〔H27～〕
- ③ **特任助教雇用**：第4期(R4～)以降に本学の**中核として発展が期待**される分野の研究体制構築〔H29～〕
- ④ **博士研究員雇用**：**優れた研究チーム**等の研究推進、先導的な海外研究室との共同研究を支援〔H29拡充〕
- ⑤ **研究力強化事業**：**優れた研究者・研究プロジェクト**の更なる推進等を支援〔H29～〕
- ⑥ **教育研究支援制度**：新規採用又は昇任した教員の**教育研究環境整備**等を支援〔H29～〕

19



共同研究講座・共同研究部門（研究推進 & 人材育成）

設置実績：11件（2020.11 現在）

講座等名称	受入部局	設置期間
SUMCO共同研究講座	生命体工学研究科（若松）	2017.7～（6年間）
IoTシステム実装研究講座（パナソニック共同研究講座）	工学研究院（戸畑）	2017.11～（6年間）
ECCウェルネス共同研究講座	情報工学研究院（飯塚）	2018.4～（3年間）
デンソーLean Automation共同研究講座	工学研究院（戸畑）	2018.4～（3年間）
プラントライフサイクルエンジニアリング（PLE-TAKADA）講座	生命体工学研究科（若松）	2018.4～（3年間）
安川電機ロボット新技術開発講座	工学研究院（戸畑）	2018.8～（3年間）
SANWA Corp. グリーンマテリアル共同研究講座	工学研究院（戸畑）	2018.10～（1年6ヵ月間）
デンソー生産準備IoT 共同研究講座	情報工学研究院（飯塚）	2018.10～（3年間）
機能性材料 共同研究部門	分子工学研究所（戸畑）	2019.4～（3年間）
新規材料分子設計 共同研究部門	分子工学研究所（戸畑）	2019.4～（3年間）
釜屋電機超高信頼性デバイス 共同研究部門	マイクロ化総合技術センター（飯塚）	2019.8～（3年間）

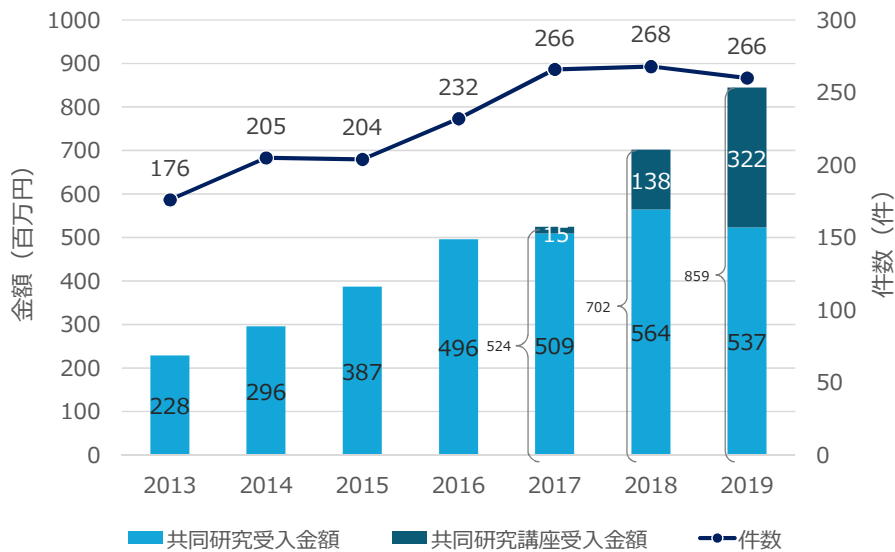
ジョイント・リサーチ・プロジェクト - 個人の繋がりを、組織の連携に -

※コロナ禍の中、多数の申請が行われており、共同研究が活性化されている

<p>ブトラ大学</p> <p>◇ 2017年3月14日、共同研究プロジェクト推進のための「趣意書」を締結 ◇ 2017年9月よりジョイントプログラムを開始（2017年度 採択3件/申請8件、2019年度 採択3件/申請22件、2020年度 採択3件/申請15件）</p>	<p>ブトラ大学との共同研究支援 3件採択(2020年度)</p>
<p>台湾科技大学</p> <p>◇ 2017年4月12日、共同研究プロジェクト推進のための「合意書」を締結 ◇ 2017年8月よりジョイントプログラムを開始（2017年度 採択5件/申請5件、2018年度 採択6件/申請7件、2019年度 採択5件/申請10件、2020年度 採択5件/申請8件）</p>	<p>台湾科技大学との共同研究支援 5件採択(2020年度)</p>
<p>情報通信研究機構（NICT）</p> <p>◇ 2018年12月1日、共同研究プロジェクト推進のための「包括的な連携協定書」を締結 ◇ 2019年4月、ジョイントプログラムテーマを審査（2019年度採択5件/申請9件、2020年度採択5件/申請7件）</p>	<p>情報通信研究機構との共同研究支援 5件採択(2020年度)</p>
<p>ハトロナス工科大学</p> <p>◇ 2019年9月30日、共同研究プロジェクト推進のための「合意書」を締結 ◇ 2019年11月よりジョイントプログラムを開始（2019年度採択2件/申請3件、2020年度採択3件/申請9件）</p>	<p>ハトロナス工科大学との共同研究支援 3件採択(2020年度)</p>

共同研究契約実績の推移

● 2019年度実績 前年比
金額：1.2倍 件数：0.99倍
(859百万円) (266件)

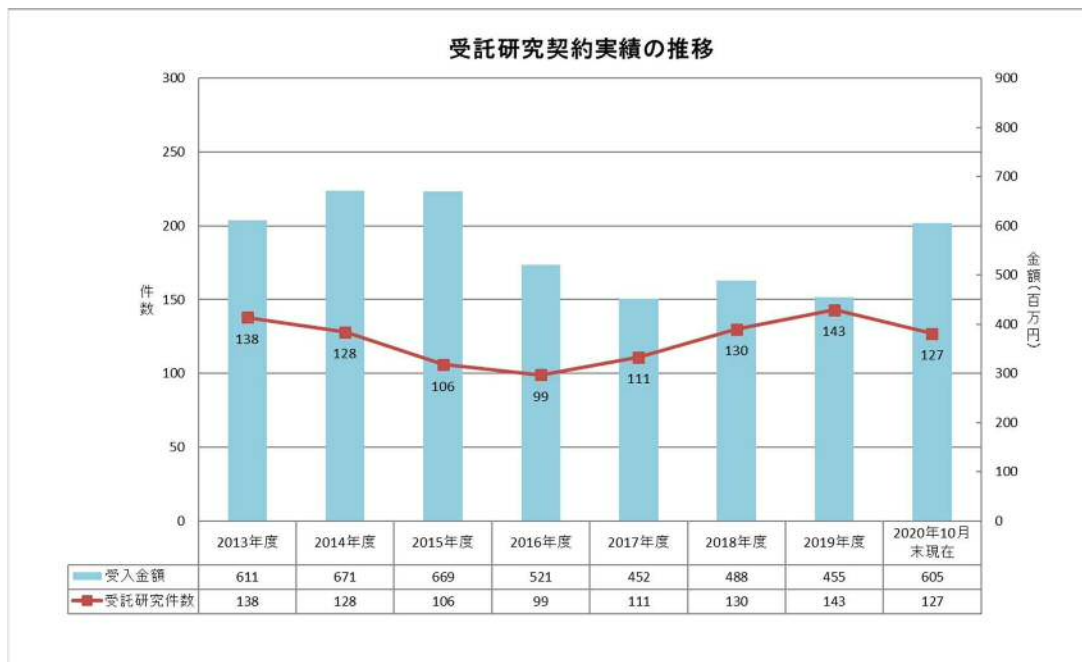


● 民間企業との共同研究に伴う研究者1人当たりの研究費受入額(2018)
第7位 (国立大学6位) ※平成30年度大学等における産学連携等実施状況

受託研究契約実績の推移

国プロジェクトの採択増により、金額が大幅に増額

● 2020年度実績 前年比(2020.10月末現在)
金額：1.3倍 件数：0.89倍
(605百万円) (127件)



令和2年度採択の主な国プロジェクト関係の受託研究実績

(金額:千円)

プロジェクト名称	機関名	期間	担当教員	金額
創薬標的分子の確からしさを検証するツール物質の探索 (文科省:戦略的創造研究推進事業(AIP加速PRISM研究)) ※令和2年度はCOVID-19対策対応の追加予算	国立研究開発法人 科学技術振興機構	H30' – R2'	情報工学研究院 山西芳裕 教授	118,000 R2'追加予算 40,000
最先端のAI技術を用いたマルチターゲット予測と構造発生を組み合わせた包括的な創薬AIプラットフォームの開発 (内閣府:創薬支援推進事業「産学連携による次世代創薬AI開発」)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構	R2'	情報工学研究院 山西芳裕 教授	99,000
マレーシアでの生分解性ナノコンポジット事業の社会実装の実現 (文科省:持続可能開発目標達成支援事業(Aタイプ))	国立研究開発法人 科学技術振興機構	R2'	生命体工学研究科 白井義人 教授 安藤義人 准教授 前田憲成 准教授	72,000
脳型記憶処理モデルの開発 (経産省:高効率・高速処理を可能とするAIチップ・次世代コンピューティングの技術開発/次世代コンピューティング技術の開発/電圧駆動不揮発性メモリを用いた超省電力ブレインモルフィックシステムの研究開発)	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	R2' – R4'	生命体工学研究科 森江 隆 教授	84,000
画像データの活用に向けた画像認識技術をベースとしたデータの分析 (経産省:高度な自動走行・MaaS等の社会実装に向けた研究開発・実証事業:自動走行システムの安全性評価技術構築に向けた研究開発プロジェクト)	一般社団法人 日本自動車研究所	R2'	情報工学研究院 榎田修一 教授	24,000
3D都市モデルを活用した都市活動モニタリング等の技術実装業務	国土交通省	R2'	工学研究院 大塚信也 准教授	20,000



SAES2020 オンライン開催 開催日時: 2020年12月12日(土) ~ 19日(土)

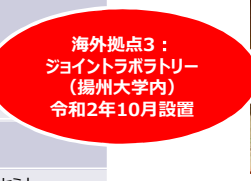
※例年、輪番にて各大学のキャンパスで開催していたが、今年度はコロナ禍によりオンライン開催で実施

【発表形態】ライブストリーミング等による口頭発表、ウェブサイトによるポスター発表、ライブやチャットによるQ&Aセッション

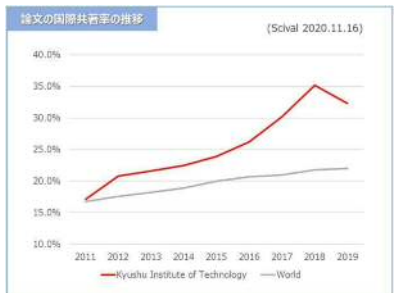
発表実績数 (2020年はR2.11.16現在の予定数、長崎大学は2020年から参加)

	2018年(KIT開催)		2019年(UPM開催)		2020年	
	口頭発表	ポスター発表	口頭発表	ポスター発表	口頭発表	ポスター発表
九州工業大学	48	47	37	52	69	60
プトラ大学	44	17	107	80	74	111
長崎大学	—	—	—	—	12	10

国際ネットワークの形成



No.	連携内容
①	拠点設置 (MSSC)、ダブルディグリープログラム、国際合同シンポジウム、国際連携推進合同委員会、国際共同研究及び国際共著論文、博士学生共同指導、ジョイントリサーチプログラム、卒業生との連携、産学連携プロジェクト、学生相互交流事業
②	拠点設置 (コラボレーションサテライトオフィス)、多国間合同ワークショップ、ダブルディグリープログラム、国際共同研究及び国際共著論文、博士学生共同指導、ジョイントリサーチプログラム、卒業生との連携、産学連携事業、合同セミナー、卒業生との連携、学生相互交流事業
③	国際共同ワークショップ、ダブルディグリープログラム、教員相互交流、国際共同研究及び共著論文、ジョイントリサーチプログラム、学生相互交流事業、合同セミナー
④	拠点設置 (ジョイントラボラトリー)、ダブルディグリープログラム、国際共同研究及び共著論文、学生交流事業、合同セミナー、卒業生との連携・共同研究、国際共同研究室
⑤	国際共同研究合同チーム、双方向ダブルディグリープログラム、国際共同研究及び共著論文、交換留学、エラスムス+プログラム、合同ワークショップ
⑥	共同分析実験センター設置、相互学生交流事業、交換留学、ポスドク研究員受け入れ事業、合同セミナー、ワークショップ
⑦	国際共同研究及び共著論文、学生交流事業、合同セミナー、交換留学、卒業生との連携・共同研究、国際コンソーシアム
⑧	国際共同研究及び共著論文、卒業生との連携、国際連携事業 (超小型衛星プロジェクト)、国際協力機構 (JICA) 支援事業
⑨	合同ワークショップ、学生交流事業、合同セミナー、国際共同研究及び共著論文、教員招へい、2国間国際連携事業
⑩	多国間合同ワークショップ、国際共同研究及び共著論文、教員招へい、2国間国際共同研究事業
⑪	学生相互交流プログラム、国際共同研究及び共著論文、卒業生との連携
⑫	双方向交換留学プログラム、双方向ダブルディグリープログラム



産学連携の発展 (未来思考キャンパス)

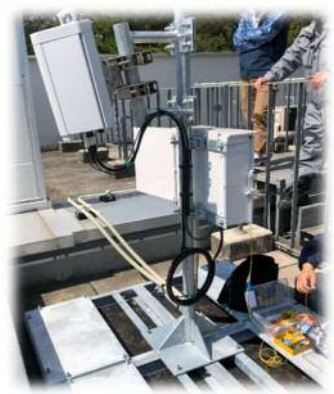


— 学生や教員が、学内で「未来」を身近に感じ、挑戦することができるキャンパスへ —

AI無人店舗「con-tech」

- ✓ AI画像認識による、顔認証・商品認識
- ✓ 生協組合員証、PayPayでキャッシュレス決済

2020年11月
リニューアルオープン！



ローカル5G

- ✓ 「九州初」の無線局免許取得
- ✓ 産学連携した免許取得は「全国初」



I. 教育

II. 研究

III. 社会連携

IV. 管理運営

地域企業との取組み

産学官連携推進会によるインターンシップ型アルバイト事業の実施

『インターンシップ型アルバイト』とは、仕事内容を学生の専攻分野に関することに限定した就業体験型アルバイトであり、「学生教育」、「企業との連携」に力を入れている大学と、「学生採用」、「大学との連携」を期待する企業のニーズをマッチングさせることを目的とした**新しい産学連携の取組み**として実施しています。

- ▶ 日時：2020年7月10日～9月30日
- ▶ 開催形式：学内Webページに求人情報、企業PRデータを掲載
- ▶ 参加企業数：9社
- ▶ 応募実績：51名(9月末時点) ※今後、定期的に開催を予定

自治体との連携

飯塚市との取組み

技術職員が制作したフェイスシールドの寄贈

飯塚市立小学校的教育活動を支援するため飯塚キャンパス技術部から飯塚市小学校校長会に**技術職員が制作したフェイスシールド300枚**を寄贈しました。



2020年11月4日 贈呈式の様子

学習支援サービスMoodleによる

飯塚市一人暮らし大学生応援事業の申請受付

- ▶ 申請期間：2020年8月3日～9月30日
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイト収入が減少した学生などに飯塚商工会議所が発行する**いづかプレミアム応援券**を一人暮らしや学生同士で**共同生活を行う学生に無償で配布**
- ▶ 本学は学生がMoodleで申請したデータを取りまとめ、飯塚市役所の担当部署に送付



北九州市との取組み

北九州市新科学館(仮称)への展示協力

- ▶ 展示・運営検討会への参加(2019年8月～12月、計3回開催)
- ▶ 本学は**1階(大学や研究内容の紹介)**と**3階(宇宙開発の取組みを紹介)**に展示を行う予定 ※2022年春の開館に向けて調整中

市内大学関係者勉強会への参加

- ▶ 2020年7月、北九州市のウェブページで市と大学の広報連携として提案された**大学紹介サイト**が公開された。
- ▶ 2020年11月、新型コロナウイルス感染予防対策下での大学運営について、これまでの取組みと意見交換を行う予定



地元企業と連携したキャリア教育推進事業の実施

- ▶ 2020年度 地元就職促進に向けた市内大学等助成金による事業
- ▶ キャリア教育の段階から積極的に地元企業が参画し、学生のキャリア教育を協同で行うことにより、**北九州市の産業や企業の認知度を向上させ、地元企業への就職を促進**

北九州市ふるさと納税 大学支援メニューの追加

- ▶ 2020年4月1日から実施
- ▶ 集められた寄附金は、本学が実施する**北九州市内企業の競争力強化と人材確保に貢献する取組み**を推進していくために活用

※飯塚市とは2019年10月1日から実施



北九州市の課題：人口減少・高齢化による労働力不足 **を解決する**

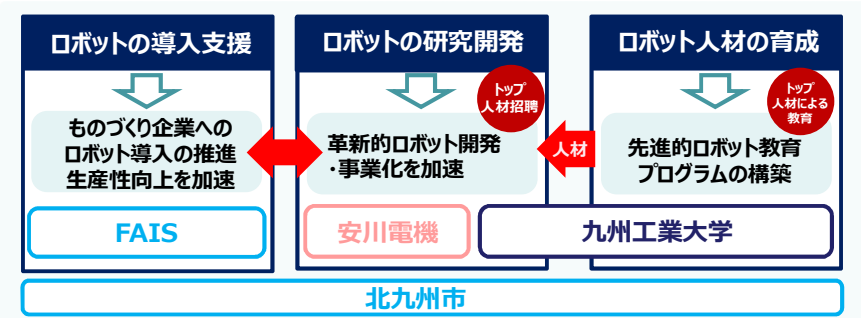


革新的ロボットテクノロジーを活用した
ものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト

事業期間：2018年度～2027年度
事業費：約17億円（5年間）※北九州市と国のマッチングファンド
構成員：北九州市、FAIS、(株)安川電機、九工大 他

令和2年度の取り組み

- 「安川電機との連携」 企業と大学の新しい関係構築の検討開始
- 「研究開発関連」
ロボット実機での検証に向けた研究テーマ遂行
- 「トップ人材による教育」
ロボットRelayを活用したパイロットプロジェクトの試行



多様な組織との連携を通じた広報活動を展開

● 学長記者懇談会の継続実施



2016年から、定期的に学長記者懇談会を開催。報道関係者への情報発信だけでなく相互の情報・意見交換を行い、メディア各社との連携を深めている。2020年10月は若松キャンパスで開催。

● YE DIGITAL、北九州市との連携協定



「オープンイノベーション人材の育成に係る連携協定」を締結。人材育成を基本として様々な面にて連携を深めている。（YE DIGITALショールームにて九工大衛星を展示中。2021年1月からはトマト収穫ロボットを展示予定）

● 博多大丸（デパート）でのコラボイベント



2019年3月、10月と2度、福岡市天神の大丸でイベントを開催。サイエンスカフェや子供プログラミング教室など多くの観衆を集め、大好評のイベントとなった。2021年春からオンラインイベント等予定。

● 長崎大との工学系強化を目指した協定



工学系を中心に協力可能な全ての分野において連携を図り、未来の社会発展を担う人材を『九州』から輩出することを目指す。2020年11月に九経連麻生会長も同席の上、協定調印式を実施。

KYUTECH LAB 九工大の研究をわかりやすく紹介

『WEB』『冊子』『パネル』とマルチに展開



WEB版 KYUTECH LAB

ごく一般の方々に対し、大学で行われている研究は敷居が高く、遠い世界の様に思われがち。

⇒ そうではなく、私たちの周りにも研究成果はたくさん応用されていて、大学での研究活動をもっと身近に感じ、共感を得ることを目的に企画。



冊子版 KYUTECH LAB



パネル展示（大丸福岡天神店でのイベント）

**2020年は6名の研究者のコンテンツを追加！
今後もより多くの研究者を紹介します！！**

I. 教育
II. 研究
III. 社会連携
IV. 管理運営

第2期
までに
達成済
の事項

- 役員会主導による人事制度導入（教員の人事権限等の重要事項を役員会へ移行済）
- 教授会の役割明確化（教学案件を主に審議するシステム：平成16年度から実施）
- 学長による部局長選任制度の再整備（業績評価導入）
- 学長補佐体制の強化 総括副学長設置（平成26年度実施）
- 技術職員の全学組織化（技術部の発足）
- 外部意見の取り入れ
 - ・経営協議会の学外委員の定員見直し（平成26年度実施）
 - ・産学連携教育審議会（産業界の人事担当者等からの意見を取り入れ、産業界に必要な人材像とその教育方法を審議）



ガバナンス・人事給与システム改革

第3期

- (1) 学長企画室新設 (平成28年度～)
IR室とも連携しながら、大学改革の企画立案を担当し、**学長のリーダーシップをサポート**
他機関との包括的な連携協定や大型外部資金の獲得、人事・マネジメント改革などを主導
- (2) 戦略的な教員人事を推進 (平成28年度～)
全部局長が参加する「人材活性化推進会議」を設置。**組織力を高めるための戦略的な教員配置**
平成29年度に2名、平成30年度に2名の**教員の部局間異動**を実施。
大学及び部局の戦略に基づく**教員採用計画の策定**
原則として新規採用する全ての准教授・助教にテニュアトラックを適用。
- (3) 男女共同参画推進室を設置 (平成28年度～)
「ダイバーシティ研究開発環境実現イニシアティブ（特色型）」採択（平成29年度）
在宅勤務制度の導入（平成29年度実績5名）、**女性限定の教員公募**（3件）の実施
- (4) 「人事制度改革マラソン」開始 (平成29年度検討開始～令和元年度運用開始)
職員満足度調査（平成28年度）を実施し、**ES調査に基づく経営改善**の取組開始
事務職員の有志によるワークショップを定期開催し、成長意欲の促進、適正な人事考課、互いに認め合う環境づくりを検討。令和元年度より運用開始。
- (5) 新年俸制等人事給与とマネジメント改革検討開始 (平成30年度検討開始～令和元年度運用開始)
教育職員のモチベーション向上のため、**業績評価を取り入れた新しい年俸制**を検討。令和元年度より運用開始。
- (6) 技術職員の処遇改善 (平成29年度～)
全学組織化した、技術部の昇任・昇格制度や管理職手当などをはじめとする制度見直しを実施

54

『危機事象対策本部』を設置（2020年2月17日）

関係部署と連携しつつ、機動的に対策を決定、実行

危機事象
対策本部

- 学長、全理事
- 工学研究院長
- 情報工学研究院長
- 生命体工学研究科長
- 教養教育院長
- 産業医

学生への対応

学生への支援策

- 新型コロナウイルス対策「給付型奨学金」（因窮学生に5万円）
- 後期授業料減免の緊急支援
- 後援会による貸付金事業
- 授業料の徴収猶予
- 保健センターに健康相談窓口の設置
- 学生何でも相談口の活用
- 遠隔授業のためのノートパソコン、Wi-Fiルータの貸与
- 令和元年度 学位記授与式（3.25）の中止
- 令和2年度 入学式（4.7）の中止
- 前期（1Q）の授業開始日を5.7に延期
- キャンパス内への入構、課外活動の禁止（1Q終了まで）
- 前期（1-2Q）の授業を原則全て遠隔授業にて実施

教職員への対応

- ◎ 在宅勤務の導入
 - 教育職員 ⇒ 原則在宅勤務
 - 事務職員 ⇒ 業務を遂行出来る範囲で在宅勤務
 - 技術職員 ⇒ 業務を遂行出来る範囲で在宅勤務
- ◎ 小学生等子どもがいる家庭への配慮
- ◎ 出張の原則禁止（緊急事態宣言解除後は、自粛要請）
- ◎ 自家用車通勤の規制緩和
- ◎ 時差出勤の許諾
- ◎ 私的な旅行の自粛要請



文部科学省補助事業 (H29年度採択～R4年度)
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」選定中

令和元年度の「中間評価」で、最高の「S評価」を獲得!
「複合支援」→ 女性教員の「研究力向上」に効果
(在宅勤務×支援研究員配置支援事業)で支援
→ 科研費採択率(新規+継続) 1.3倍に(H29→R2)

「研究者支援事業」の見直し ⇒ 5部門を3部門に整理、**男性研究者も支援対象に!**

女性教員比率 (9.4%) ⇒ すでにKPI (8%) を達成

女性限定公募 5件実施・1件募集中 (工学系の3部局で実施)

女性教員・女子学部生比率・・・いずれも上昇 (H20→H29→R2)
女性教員 4.9%→7.5%→ **9.4%** (女子学部生 8.9%→14.0%→ **14.3%**)
女性役員比率(目標14%) **25.0%** (R2) 女性管理職(目標14%) **21.1%** (R2)

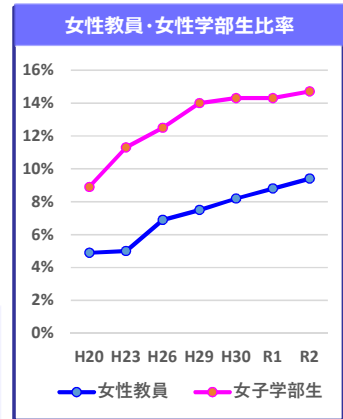
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う

内閣府『ベビーシッター利用者支援事業』の活用 (8月から案内中)
家庭内での保育・世話、もしくは、家庭と保育等施設との間の送迎を支援

学童図書館の貸し出し 貸出件数23件 (7月20日～12月末まで実施予定)
夏期学童保育の代替支援、ステイホーム支援

全国・地域との連携・情報ネットワークの構築

「全国ダイバーシティネットワーク組織」
「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク (Q-wea)」



本学の「複合支援」



(在宅勤務×支援研究員配置支援事業)
4年目を迎え、昨年度までの5部門の研究環境整備に関する支援事業を見直し、うち3部門について、内容を一部変更して今年度実施。
「支援研究員配置支援事業」については男性研究者も対象になりました!

教育現場からの評価 (高校の進路指導教諭が選ぶ大学〔国立大学編〕)

全国 国立大学ランキング			
小規模だが評価できる大学	就職に力を入れている大学	面倒見が良い大学	
1位 (前年度1位)	1位 (前年度2位)	2位 (前年度2位)	
九州地区 国立大学ランキング			
教育力が高い大学	研究力が高い大学	入学後、生徒の満足度が高い大学	入学後、生徒を伸ばしてくれる大学
2位	2位	2位	2位


(株)大学通信『大学探しランキングブック2021大学通信』より

有名企業400社への就職実績 (大学通信による調査データより)

(2020年10月現在)

全国順位	400社実就職率 ※	卒業者	400社就職者数	大学院進学者数
7位 (西日本 1位)	37.4 %	1,579 人	375 人	575 人

※ 有名企業400社への就職者数 ÷ [卒業 (修了) 者数] - 大学院進学者数 × 100

 **世界大学ランキング 2021**

1001+ 位

(昨年度は1001+位)

日本の大学で、**53位** / 116大学

(昨年度は 46位 / 110大学)

(THE WORLD UNIVERSITY RANKINGSホームページより、本学独自集計)

 **インパクトランキング 2020**



SDG9

101-200 位

THEインパクトランキング・・・
大学の社会貢献をSDGsの観点で指標化したランキング。
2019年に公開された新しいランキングで、本学は2020年版より参加。

 **分野別ランキング 2021**

Engineering and Technology分野

601-800 位

(昨年度は601-800位)

日本の大学で、**15位** / 77大学

(昨年度は15位 / 76大学)

(THE WORLD UNIVERSITY RANKINGSホームページより、本学独自集計)

 **分野別ランキング 2020**

Engineering Mechanical, Aeronautical
& Manufacturing分野

451-500 位

 **Asia 大学ランキング 2020**

207位

(昨年度203位)

日本の大学で、**31位** / 87大学

(昨年度は 31位 / 89大学)

未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」

業務執行状況の確認に係る意見について

学長の業務執行状況の確認については、

- ・ 令和2年11月20日開催の令和元年度第3回経営協議会の〔その他〕の“(1)第3期の業務状況に係る報告について”の質疑応答
 - ・ 令和2年11月20日(金)以降に送付された「令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果」(原案)
- を踏まえ、各学長選考会議委員及び両監事から、下記のとおり意見提出があった。

【学長選考会議委員からの意見】

- 学長については、中期計画に沿って学内をまとめるリーダーシップを発揮し順調に進めていると思う。また、このコロナの発生においても、臨機応変に対応することで計画を遂行しており、いい流れを作っていると評価しています。今後は、工業大学と言う強みとIT化の推進を加速し世界的な大学に成長させることを希望しているしそれを推進できると感じています。
- コロナ禍における厳しい状況下でも、学長としてよくリーダーシップを発揮し、グローバル人材の育成、研究の活性化、産官学・地域社会との連携、管理運営などが目標通りに推進していると確認した。
特に、開学の理念である「技術に堪能なる士君子の育成」の教育方針を継承・発展させたGCE(Global Competency for Engineer)の育成を定着させていることは、高い評価に値する。加えて、卒業生からなる一般社団法人明専会との連携の下、他大学に例を見ない実践的な技術者育成教育にも力を入れていることにより、その結果、就職に強い九州工業大学の評価につながっているものと思われる。
教育、研究、社会連携、管理運営などの総合的評価は大変よく、学長の業務執行状況の評価は優と判断した。
- コロナ禍という非常に厳しい環境の中、学長自らが率先してリーダーシップをとり、学内の学生生活のサポートする仕組み作り、コロナ禍終息後を見据えたグローバルネットワーク作り、産官学連携の深化等を積極的に指揮するとともに成果を上げている点は高く評価できると考える。これらは、対外的な様々な評価(全国国立大学ランキング・就職実績・インパクトランキング等)の結果にも表れている。
今後も現在掲げておられるビジョンに対して、学内からのボトムアップを含めた活動の活性化を含め、学長の常日頃からの強いリーダーシップの発揮により、更に大きな成果となることが十分期待される。
- 九州工業大学ならではの強みと特徴をしっかりと把握し、それらを着実に伸ばして大学としての個性を鮮明に打ち出しつつあることに敬意を表します。これも尾家学長のリーダーシップが故であると思えますし、学長が教職員を信頼し、教職員が学長の下に同じ方向を

向いてチームワークしている様子は学長の業績として高く評価されます。

令和元年度の取組および成果に限れば、具体的に以下の点が特筆されます。

- ・ 社会が求める GCE:Global Competency for Engineer を有する高度技術者の育成を目標として、教育の国際化及び研究の国際競争力強化のために様々な取組を展開して成果を上げており、大学機関別選択評価事項 C(教育の国際化の状況)において、3つの観点(国際的な教育環境の構築, 外国人学生の受入, 国内学生の海外派遣)のいずれにおいても最高の評価を、総合評価としても国立大学で初めて最上位の S 評価を受けたこと。
- ・ 全国国立大学ランキングの「面倒見が良い大学」で2位, 九州地区国立大学ランキングの「教育力が高い大学」および「研究力が高い大学」で2位, 有名企業400社への就職実績で全国7位となるなど, 教育現場や社会, 企業から高い評価を受けており, 志願倍率, 合格者偏差値, 就職率の上昇等の好循環をもたらしつつあること。
- ・ 企業の出資による共同研究講座等制度の活用や国のプロジェクト採択の増加により, 企業等との共同研究や国の受託研究の総額を約 13.1 億円に, 教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入額を 3,744 千円までに増加させたこと。
- ・ 九州工業大学の強みである産学協創研究活動を促進するための「オープンラボコンプレックス」の建設を目的として「創立110周年記念建設事業募金」を設立したこと。また, 学長自ら働き掛けるなどして1年間で多額の寄附を受けたこと。
- ・ 文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の中間評価を受審し, 学長のリーダーシップの下で展開してきた2つの九工大方式(女性教員の人事管理を行う「男女共同参画推進会議」と在宅勤務×支援研究員配置支援の「複合支援」)による成果が高く評価され, 「特色型」においては唯一, S 評価を受けたこと。

○ 尾家学長は、当初策定した中期計画を元に社会情勢の急激な変化に対応すべく様々な対策を取られていると思います。また、今年度の新型コロナウイルス急拡大においては、教育システムに関して前例におない様々な対応、対策を迅速に実施していると思います。研究においては、IT、ロボティクス、宇宙分野においては九工大の代表的研究領域として戦略的に様々な資源を集中していることが見て取れます。長期的な研究戦略としては、材料分野の先端研究領域における理解も深めてほしいと考えております。

○ 尾家学長は、第3期に入って以来、第3期中期目標・計画のKPI等をふくめ、学長自身の理念をもって、教育／研究／社会貢献／管理業務の全てに渡り、着実に進めている。

特に、人事評価・働き方改革の中で、事務組織の効率化、評価等を積極的に実施している点は評価できる。また、教育職員に対する評価も継続的に、かつ、改善しながら進めていく状況が見てとれる。全学と部局との連携に対しても、柔軟、かつ、意図をもって進められている点もありがたい。以上の点から、学長として、期待される以上の活動をしている。

あえて、4期を迎えるにあたり、プランをたてる状況にあるが故に3点ほど述べておく。

第1に、教育改革も確実に進行しているが、アウトカム評価等、PDCAのCAにつながる活動を各担当がもっと積極的にすすめるよう予算措置を含めて検討してもらいたい。

第2に、昨年まで広報担当であった私自身の責任も大きいですが、もっと内部に対して、直

接的な言葉で発信していく機会をつくっていくのが望ましいと考える。互いに理念を共有化していく場の醸成を望む。

第3に、人事評価に関わり、給与等での評価、特に、時間雇用の職員に対するフィードバックに期待する。なぜなら、実際の業務を進めている場合には、正規職員はもちろんであるが、非正規の時間雇用の職員の活用が不可欠であるからである。次につなげてもらいたい。

- 令和元年度における以下の教育・研究・社会連携・管理運営の取組み、特に教育の国際化及び産業界との連携構築におけるリーダーシップを高く評価できる。ただ、大学院の定員管理などで問題が生じ始めている事項もあるため、今後は各部署の問題を抽出し、それらを大学全体で解決していけるような取組みを期待する。

教育について：

- ・GCE 教育を強力に推進し、本学学生の海外派遣数、留学生の受入れ数の増大につながった。その結果、令和元年度の(独)大学改革支援・学位授与機構による評価(教育の国際化の状況)において最高評価を受けるに至った。
- ・コロナの影響が出始めた令和2年2～3月に、オンラインによる国際交流プログラムと語学研修プログラムを複数実施し、コロナ禍における GCE 教育環境を整備した。
- ・生命体工学研究科に二つ目の英語コースを設置し、4番目の文部科学省の国費留学生優先配置プログラムの採択につなげた。

研究について：

- ・令和元年度に新たに3件の共同研究部門を設置し、共同研究講座及び共同研究部門を合計11件に増加させた。これにより、産業界との共同研究による外部資金獲得額が令和元年度で8.4億円となり、4年間で2倍以上、前年度から1億円以上増加した。
- ・UPM、台湾科技大に加えて、新たにペトロナス工科大とのジョイントリサーチプログラムを開始し、組織的連携を構築することで、国際共著論文の増加、論文の質の向上につながった。さらに、情報通信研究機構(NICT)との共同研究プロジェクトを開始した。
- ・これまでの重点プロジェクトセンターを見直し、先端基幹研究センター等の新たなセンターを選定・再編するとともに、これらをオープンイノベーション推進機構の直下に配置し、令和2年度以降のセンターの運営・予算支援の体制を整備した。

社会連携について：

- ・学長企画室の主導のもと、北九州市、(株)安川電機等との連携による内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」を推進した。
- ・「地域連携型インターンシップ」など、地域連携による教育活動を推進した。
- ・東京で「110周年記念フォーラム」を開催し、「産学連携が彩る共創環境」をテーマに今後の産学連携活動について議論する場を構築した。

管理運営について：

- ・令和元年度より、業績評価を取り入れた第二期年俸制の運用を開始した。
- ・男女共同参画推進に向けた取組みとして、文科省「ダイバーシティ研究環境実現イニシ

アティブ(特色型)」を推進し、令和元年度の中間評価で最高の S 評価を獲得した。
・令和元年2月に危機事象対策本部を立ち上げ、コロナ対策に係る意思決定体制を構築した。これにより、令和2年度における遠隔授業、学生への経済的支援等の迅速かつ適切な実施につなげた。

- 「選択評価事項 C 教育の国際化の状況」や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」における令和元年度の「中間評価」における高い評価に象徴されるように、学長のリーダーシップのもとで効果的に推進されている領域・事項が外部評価によりさらに明らかになった。このことから、社会から求められる大学の在り方をよく理解し、全学的な方針を定めるという点において、学長としての任が十分に果たされていると考えることができる。

令和元年度後半に発生した新型コロナウイルスの感染拡大下で、本学は未知の経験を強いられている。この事態に現在まで対応ができてきている要因の一つが、危機事象対策会議に代表されるような学長のリーダーシップであろう。特に遠隔講義実施に関しては人的、予算的な支援が効果的に投入されているが、元年度末からの体制構築がなければ令和2年度前期の遠隔授業中心の教育そのものが成立しない可能性もあった。この点は、学長があげた数多の業績の中でも特筆すべき点であると思われる。

本学のGCE教育において海外派遣事業はひとつの柱であるが、海外に派遣していた、あるいは派遣中の学生に対して元年度末に生じた上記感染拡大下の混乱を、最小限のものにとどめ、学生の安全を確保しつつ、令和2年度のオンラインによる国際的な協働学習につなげていく判断も適格であった。

上記のことから、大学の運営における学長の業績は、全世界的な混乱が続く現況に耐えうるだけの組織的な対応を令和元年度、またはそれ以前から構築してきたことが示すように、業務運営全般に渡り良好であると結論づけられる。

【監事からの意見】

- 2019年度(平成31年度/令和元年度)は、法人にとって第3期中期目標・計画期間の4年目であり、加えて現学長任期最後の4年目でもある。また、大学にとっては創立110周年を迎える区切りの年でもある。

学長リーダーシップのもと、理事等法人執行部との連携で意欲的に年度計画に対して計画を上回って実施するとともに、一連の周年事業では学長自ら先頭に立ち対外的に本学の今の発信に努め、とりわけ8月に開催された東京での110周年記念フォーラムでは法人の現況とビジョンを内外に積極的に発信している。

文部科学省が実施する大学法人評価委員会の2019年度及び4年目終了時評価は現時点では確定していないが、業務の実績における年度評価については計画を順調に実施している旨の報告を得ている。加えて、2019年度に外部評価である大学改革支援・学位授与機構の評価事項C「教育の国際化の状況」を受審し、最高ランクの S 評価を得ている。これらの評価は学長マネジメントの成果を高く評価したものと見える。

さらに、本年度学長選考会議が厳正な審査の上、次期学長として現学長を再任したことは、第3期における4年間の実績が顕著であったことを証明するものである。

監事は、日常的に役員会、教育研究評議会、学長選考会議等に陪席し、学長及び理事等の業務について理解を深めているが、とりわけ毎回役員会、教育研究評議会の席で、

学長が各メンバーと大学運営の方針を共有すべく、そのつど目下の関心事について自らの言葉でメッセージを伝えていることは、まさに、Kyutech OneTeamを目指す学長の姿勢であり、本学の強みであるといえる。本年2月、これまでに経験したことのないコロナ感染症への対応についても迅速かつ適切な対応を取ることができたのも本学のこれまでの大学運営の組織的強さゆえであろう。

加えて法人のさらなる改善向上のために、第4期中期計画策定への対応および、2020年1、2月に実施した監事監査の教職員ヒアリングにおいて意見のあった「3 キャンパスのさらなる交流」「入試業務の効率化」「教職員等の大学運営業務の多忙さ」への配慮をいっそう願いたい。

- 学長のビジョンのもと、このコロナ渦の中、スピーディに行動し、実行しています。今年度は、コロナ渦の中、素早くオンライン授業に切り替え、その学生の満足度も高い評価をうけています。また、国際合同シンポジウムにおいて今年度は、オンラインにて開催をしています。状況の変化にスピード感をもって対応をされていて感銘を受けました。学長のリーダーシップのもと組織体制が整っているように思います。さらに、産学連携においては、産学連携した免許取得は〈全国初〉である第二弾のローカル5G実証試験がどのような成果を生むのか楽しみです。地域に求められる大学となるためにも産学連携また地域貢献の取り組みには更に力を入れていただきたい。

人口減少をはじめ国立大学法人を取り巻く状況はまさに課題が多いように思いますが、新型コロナウイルス感染症や世界各地での大規模災害などの前例のない非連続な変化により、我が国のデジタル化の遅れやスピード感の不足などが露呈したことを考慮すると技術力、研究力のさらなる強化、また、人材の必要性は高まってくると考えられます。

強味・特色を色濃く全面に出し、「なくてはならない大学」となるように期待します。